

○杏林大学学位規程

制定	昭和51年 4月 1日	
改正	昭和57年11月 1日	昭和59年 4月 1日
	昭和61年 3月18日	平成 3年 1月30日
	平成 3年 9月25日	平成 4年10月26日
	平成 5年10月27日	平成 7年 3月16日
	平成 7年 9月28日	平成14年 2月18日
	平成15年12月 5日	平成18年 3月29日
	平成18年 5月29日	平成18年12月 8日
	平成19年 3月12日	平成20年 3月28日
	平成20年 5月29日	平成21年 1月19日
	平成21年12月 3日	平成22年 3月15日
	平成22年12月 3日	平成23年10月 1日
	平成24年12月 7日	平成25年 5月24日
	平成28年10月17日	平成30年 3月28日
	平成30年12月 7日	令和 3年12月 3日

（目的）

第1条 この規程は、学位規則（昭和28年文部省令第9号）第13条の規定に基づき、杏林大学（以下「本学」という。）において授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

（学位の名称）

第2条 本学において授与する学位の名称は次のとおりとする。

1 学士

医学部	学士（医学）
保健学部	
臨床検査技術学科	学士（保健衛生学）
健康福祉学科	学士（保健衛生学）
看護学科	学士（看護学）
臨床工学科	学士（臨床工学）
救急救命学科	学士（救急救命学）
理学療法学科	学士（理学療法学）
作業療法学科	学士（作業療法学）
診療放射線技術学科	学士（診療放射線学）
臨床心理学科	学士（臨床心理学）
総合政策学部	
総合政策学科	学士（総合政策学）
企業経営学科	学士（企業経営学）
外国語学部	
英語学科	学士（文学）
中国語学科	学士（中国語コミュニケーション学）
観光交流文化学科	学士（観光交流文化学）

第3類（杏林大学学位規程）

2 修士

保健学研究科

保健学専攻

修士（保健学）

看護学専攻

修士（看護学）

臨床心理学専攻

修士（臨床心理学）

国際協力研究科

国際開発専攻

修士（開発学）

国際医療協力専攻

修士（国際医療協力）

グローバル・コミュニケーション専攻 修士（学術）

3 博士

医学研究科

博士（医学）

保健学研究科

保健学専攻

博士（保健学）

看護学専攻

博士（看護学）

国際協力研究科

博士（学術）

（学士の要件）

第3条 学士の学位は、本学学則第39条に基づき、学部卒業の認定をうけた者に授与する。

（修士の授与要件）

第4条 修士の学位は、大学院博士前期課程を修了した者に授与する。

（課程修了による博士の授与要件）

第5条 博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に授与する。

（論文提出による博士の授与要件）

第6条 博士の学位は、前条に規定する者のほか研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学力があることを確認（以下「学力の確認」という。）された者に授与する。

（学力の確認の特例）

第7条 大学院博士課程における教育課程を終え、学位論文を提出しないで退学した者のうち、退学の日から起算して2年以内に論文による博士の学位を申請した者の学力の確認は、研究科委員会が適当と認めた場合に一部若しくはすべてを行わないことができる。

2 研究科委員会が認めた場合には業績及び経歴の審査を以て学力の確認の一部若しくはすべてに代えることができる。

（課程による学位の申請）

第8条 第4条の規定に基づき修士の学位を申請する者は、在学期間中に学位論文2部を指導教授を通じて当該研究科長を経て学長に提出するものとする。

2 前項の場合において、当該課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって、学位論文の審査に代えることができる。

3 第5条の規定に基づき博士の学位を申請する者は、在学期間中に主科目担当の指導教授の指示する時期までに論文並びに論文審査手数料を添えて、研究科長を経て

第3類（杏林大学学位規程）

学長に提出するものとする。

（論文提出による学位の申請）

第9条 第6条の規定に基づき博士の学位を申請する者は、論文のほかに別紙様式第1による学位申請書及び本人の履歴書・論文目録を学長に提出し、別に定める論文審査手数料を納付しなければならない。

2 審査のため必要があるときは、論文の訳文、標型又は標本等を提出させることがある。

（審査の付託）

第10条 学長は学位論文を受理したときは当該研究科委員会にその審査を付託するものとする。

（審査委員の選出）

第11条 前条の審査を付託された研究科委員会は、当該研究科委員会委員3人以上からなる審査委員を選出するものとする。

2 審査には必要に応じ、前項の審査委員以外の他の大学院又は研究所等の教員等（学外審査委員という。）又は本学大学院専任教員をもってあてることができる。

3 審査委員の選出は、前項の学外審査委員等の積極的な登用などにより、審査に係る透明性・客観性を確保するよう努めなければならない。

（教員等の責務）

第11条の2 審査に関わる教員等は、法令その他本学が定める諸規程を遵守することとはもとより、高い倫理観と社会的良識を持って、公正かつ誠実な職務の遂行を行うこととする。

（公開発表会）

第11条の3 当該研究科長は、審査に当たり、公開発表会を開催しなければならない。

2 当該研究科長は、前項の公開発表会に係る日程等を開催日程通知（別紙様式第6）により学長に報告するものとする。

3 当該研究科長は、公開発表会開催日の1週間前までに開催日程を論文申請者に通知するとともに公示しなければならない。

4 審査委員は、公開発表会に出席しなければならない。

（通報・相談窓口の設置）

第11条の4 審査に係る不正等の本学内外からの通報（告発）を受け付ける窓口を大学事務部に設置する。

2 審査に係る相談窓口を各研究科事務部に設置する。

3 通報・相談窓口の設置については、関係者に周知しなければならない。

（調査委員会の設置）

第11条の5 学長は、通報等により、不正等が疑われる情報を知り得たときは、速やかに調査委員会を設置して事実関係を調査しなければならない。

2 調査委員会の委員は次の中から学長が指名する。

（1）学長が指名する研究科長

（2）不正が疑われる教員の所属する学部長又は研究科長

第3類（杏林大学学位規程）

（3）不正が疑われる教員の所属学部又は研究科以外の教授 2名

（4）事務局長

（5）大学事務部長

（6）その他特に必要と認められる者 若干名

3 調査委員会の委員長は、前項第1号により指名された研究科長をもって充てる。

（調査結果の公表）

第11条の6 調査委員会の委員長は、調査が完了したときは報告書を作成し、関連資料を添えて速やかに学長に報告しなければならない。

2 前項の報告書は、教員が事実として認めたものでなければ、提出してはならない。

3 学長は、報告書に基づき、速やかに調査結果を公表しなければならない。

（審査、試験及び試問）

第12条 審査委員は論文の審査、試験及び試問の施行に当る。

2 最終試験は、論文を中心として、これに関連のある科目について口頭又は筆記により行う。

3 第9条により学位を申請した者に対する試問は口頭及び筆記とし、外国語については1ヵ国語を課することを原則とする。

（審査期間）

第13条 前条に規定する論文の審査、試験及び試問は論文が受理された後できるだけすみやかに終了しなければならない。ただし、特別の理由があるときは、当該研究科委員会の議を経て、その期間を1年以内に限り延長することができる。

2 保健学研究科及び国際協力研究科における修士論文の審査及び試験は在学期間中に終了しなければならない。

（審査委員の報告）

第14条 審査委員は論文の審査、試験及び試問を終了したときは、直ちに論文審査の要旨、試験及び試問の結果の要旨並びに成績を文書で当該研究科委員会に報告しなければならない。

（研究科委員会の審議）

第15条 前条の報告を受けた研究科委員会は審議のうえ、学位を授与すべきか否かを議決する。

2 前項の審議を行うための研究科委員会は、海外出張中又は休職中の者を除き研究科委員会委員の3分の2以上の出席を必要とする。

3 第1項の議決をするには、出席委員の3分の2以上の同意を必要とする。

（学長への審議結果の報告）

第16条 前条の研究科委員会の審議結果を、研究科長は、文書により学長に報告しなければならない。

（学位の授与）

第17条 学長は前条の報告に基づいて、学位を授与すべき者には所定の学位記を授与する。

2 学位記は別紙様式第2、様式第3、様式第4及び様式第5による。

3 学位は、学位授与原簿に登載する。

第3類（杏林大学学位規程）

（文部科学大臣への報告）

第18条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は、授与した日から3月以内にこれをインターネットの利用により文部科学大臣に報告する。

（学位論文の要旨及び審査の要旨の公表）

第19条 本学は、博士の学位を授与した日から3月以内に、学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表する。

（論文の公表）

第20条 博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内に、学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に、すでに論文を公表しているときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合、本学は、求めに応じてその論文の全文を閲覧に供するものとする。

3 前2項の規定による学位論文の公表は、インターネットの利用により行うものとする。

（学位の称号）

第21条 本学で学位を授与された者が、学位の称号を用いるときは「杏林大学」と明記しなければならない。

（学位授与の取消）

第22条 学位を授与された者に、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、当該研究科委員会並びに大学院委員会の議を経て、学位の授与を取消し、学位記を還付させるとともに、その旨を公表する。

2 当該研究科委員会において、前項の議決を行う場合は、第15条第2項及び第3項の規定を準用する。

附 則

この規程は、昭和51年 4月 1日より施行する。

附 則

この規程は、昭和57年11月 1日より施行する。

附 則

この規程は、昭和59年 4月 1日より施行する。

附 則

この規程は、昭和61年 4月 1日より施行する。

附 則

この規程は、平成 3年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成 3年10月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成 5年 4月 1日から施行する。ただし、第12条第3項の規

第3類（杏林大学学位規程）

定は、平成 4 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 8 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 18 年 6 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 20 年 6 月 1 日から施行する。ただし、第2条第1項中、保健学部理学療法学科 学士（理学療法学）については、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 21 年 3 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 23 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

第3類（杏林大学学位規程）

（経過措置）

- 2 この規程による改正後の第19条の規定は、平成25年4月1日以降に博士の学位を授与した場合に適用し、平成25年3月31日までに博士の学位を授与した場合は、改正前の規程を適用する。
- 3 この規程による改正後の第20条の規定は、平成25年4月1日以降に博士の学位を授与された者について適用し、平成25年3月31日までに博士の学位を授与された者については、改正前の規程を適用する。

附 則

この規程は、平成28年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年 4月 1日から施行する。

附 則

（施行期日）

- 1 この規程は、平成31年 4月 1日から施行する。

（経過措置）

- 2 この規程による改正後の第2条の規定は、平成31年4月1日以降の入学生に適用し、平成30年9月15日以前の入学生については、改正前の規程を適用する。

附 則

この規程は、令和 4年 4月 1日から施行する。

第3類（杏林大学学位規程）

別紙様式第 1

			年	月	日
杏林大学長		殿			
			申請者	氏名	⑩
学 位 申 請 書					
貴学学位規程第 9 条第 項の規定により、論文に論文要旨、履歴書及び所定の論文審査手数料を添えて博士の学位の授与を申請いたします。					

別紙様式第 2

			博甲	第	号
学 位 記					
杏林 大学	氏 名				
	生年月日				
杏林大学大学院 学研究科博士課程において 学専攻の 所定単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格した よって博士 () の学位を授与する					
年 月 日			杏林大学大学院 学研究科長 ⑩		
			杏 林 大 学 長 ⑩		

第3類（杏林大学学位規程）

別紙様式第3

		博 乙 第		号
		学 位 記		
杏林 大学			氏 名	
			生年月日	
杏林大学に博士（ ）の学位論文を提出し所定の審査及び試験に合格した によって博士（ ）の学位を授与する				
		年	月	日
		杏林大学大学院 学研究科長		印
		杏 林 大 学 長		印

別紙様式第4

		修 第		号
		学 位 記		
杏林 大学			氏 名	
			生年月日	
杏林大学大学院 学研究科博士前期課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び最終試験に合格した によって修士（ ）の学位を授与する				
		年	月	日
		杏林大学大学院 学研究科長		印
		杏 林 大 学 長		印

第3類（杏林大学学位規程）

別紙様式第5

		第		号	
学		位		記	
杏林 大学			氏	名	
			年	月	日生
杏林大学学則に定める		学部	学科所定の課程を修め本		
学を卒業したので学士（		）の学位を授与する			
年		月	日		
		杏林大学	学部長	⑩	
		杏林大学長		⑩	

別紙様式第6

公開発表会開催日程通知

平成 年 月 日

杏林大学長 殿

研究科長名 ⑩

申請者氏名

上記の者の論文審査のための公開発表会を、下記のとおり実施します。

記

1 日 時 平成 年 月 日 時 分から

2 場 所